

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200228		
法人名	合同会社 ライフサポート・ゆうゆう		
事業所名	グループホーム ゆうゆう八木沢		
所在地	岩手県宮古市八木沢第5地割85番地1		
自己評価作成日	平成28年2月7日	評価結果市町村受理日	平成28年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&ji_gyosyoCd=0390200228-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H26年4月に開所した事業所です。日常生活の中で利用者様の個々の症状に合わせ、家庭的な雰囲気の中ですら自分らしく、自分のペースで生活が送れるように支援しています。利用者様の人生の歴史を大切に、その人の身になって考え、心に寄り添う介護を実践し、そして地域との絆を大切にしています。

平成26年4月に開所した。運営方針が、『人生の歴史を大切に、その人の身になって考え、心に寄り添う支援を実践し、そして地域との絆を大切にしています。』で、これがそのまま事業所の理念になっている。事業所周辺は、元々、田畑だったが、宅地化が進み住宅が増えた。車で約5分程度の所に保育所、小中学校、県立大学宮古短大、開業医、歯科医院、スーパーなどがある。今後も発展を望める十分な立地条件が整っている。開所当初から、地区自治会の特に婦人会の協力があり、地域住民との交流や絆が築かれ、事業所の「強み」「特色」となっている。地域との「良い関係づくり」が、2年余りで構築されていることは、素晴らしい実践の成果である。利用者も明るく、元気で、社会的な振る舞いや人との会話を好む方が多く、居心地のよい環境となっている。今後さらに、本人の意向、家族の意見等も受け止め、地域の皆さんの協力を得て、「強み」を活かした取り組みへと発展していくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全体で話し合い、作り上げたものです。ホーム内に掲示したり、朝のミーティング時に職員間で交互に声を出し理解するように努めています。又それを利用者様のケアに反映できるように支援しています。	理念は、「①人生の歴史を大切に②その人の身になって考える③心の寄り添う介護④地域との絆を大切に」で、事業所内に掲示したり、朝礼時に復唱して理解を深め、利用者のケアに反映するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会、婦人会、地域のお祭りや敬老会、新年会、地域交流会に参加して交流することが出来ている。	開所当初から、地域との交流や絆づくりを大切にしている。地区婦人会に所属し活動している職員もおり、その方の協力を得て、関係が広がっている。また、子供会との関わり、お祭り、敬老会、新年会等々、自治会に加入し、各種イベントに参加している。保育所や中学校の慰問による交流も活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流の中で意見要望等頂きながら地域に積極的に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員との会議の中での意見等は利用者様のサービス支援につながるように努めている。	地域の様々な分野の方々が運営推進会議委員を担ってくれており、会議へも積極的に参加している。会議の形式は、事業所からの報告等を行い、そのことについて意見を頂くものとなっているが、会議の在り様を行事との抱き合わせとするような変化のあるものとするこも、新たな関係構築の一端となり得ることから、今後検討していただきたい。保育園の園長先生から、園児との交流の提案があり、利用者の楽しみともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った時など、急ぐ時は電話で時間がある時は役所へ出向き相談や指導して頂いています。今後も継続して相談できるようにしていきたい。	市主催の集団指導に参加したり、研修会の案内があれば参加している。手続き・書類等の際は、窓口に出向き、相談や指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で職員研修を実施して具体的な行為についてシュミレーション等行っている。身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	毎月1回の職員会議の後に、内部研修会を実施している。例えば、車椅子利用の方の事例をあげて、身体拘束になっていないか等を、具体的な場面を想定したり、実際にやってみたりしながら検討し、学びの機会としている。言葉遣いや行為・行動についても、利用者に不快感や抑止など身体拘束となっていないか、研修することで身体拘束廃止に繋がると考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で職員研修を実施する機会を持ち虐待防止を理解し介護に携わっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様に権利擁護制度を利用されている方がいたのである程度理解することが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時家族等に丁寧な説明を行い理解してもらうことが出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族がいつでも話しかけられる環境作りや投書箱も設置して要望等を聞き取るように努めている。	家族が話しやすくなるような環境づくりのために、事業所を訪問して来たら、居室や応接席に通し、お茶を出す等、職員側から積極的な話しかけ、聞き取りするよう心がけている。担当者が不在でも、交代職員が対応できるよう配慮している。写真入りの広報誌は、家族に好評である。家族向けにアンケートの実施や利用者の様子をお知らせする等の一考も期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を実施して意見等聞く機会を設けている。その他、いつでもその都度、話を聞くことが出来る体制が出来ている。	毎月1回、職員会議を開催している。内容は、①利用者について②行事の反省や企画③ケース検討会等である。その後は研修会を実施し、「利用者の喜ぶこと」や「ケアのために良いことは」等、皆で話し合って決め、実現できる環境である。職員の提案、アイデアも取り入れ、すぐに実行できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい環境作りを常に考えて努力してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を持たせたり、介護資格の取得に向けた研修などへの参加も積極的に進めてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の交流会や勉強会に参加する機会を持ちサービス向上につなげることが出来ている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で本人の様子や会話、情報収集等で本人の事を知り得るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から情報や意向を聞いてより良い関係を作るように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のアセスメントやカンファレンスを行いサービス内容を検討して支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は経験豊富な知識を持っているので事あるごとにわからないことなど相談したり教えてもらったりと良い関係が築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に、時々面会に来てもらえるように声掛けしている。それぞれ週1回の方、月に2、3回の方がホームに来てもらえ利用者様も安心されて過ごされています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の親戚の方や友人の方等適宜に面会に来てもらえたり、いつもの美容院へ行ったりと関係は途絶えていない。	家族はもとより、利用者の兄妹や親戚の方が面会に来ることもある。また、(利用者の自宅の)近所の方が、利用者と一緒に市民文化ホールに出かけたり、家族によって、行きつけの美容院に出かけることもある。「家に帰りたい」という希望があれば、毎月のように家に帰り、時にはヘルパーを利用して(自宅の)掃除をしてもらったり、家で過ごす時間を楽しんだりする方もいた。家族と自宅に宿泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様は毎日それぞれおしゃべりしたり、ソファでくつろぎテレビを見たり、また不安を訴える利用者様には話相手になってあげる方もいて良い関係が築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院され退居された家族も来所され、本人の経過を教えてくれたり、顔馴染みの利用者様と談話されたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が望む出来る意向は職員で話し合いながら支援しています。困難な時は、状況に応じて対応しています。	「家に帰りたい」希望があれば、自宅に帰ることができるよう支援している。自宅に大根を植えたまままで来た利用者があり、職員や他の利用者の方々と一緒に、大根掘りに出掛けたこともある。利用者や職員との個別的時間も作るようにして、思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族にアセスメントして生活歴等把握することが出来、サービスにつなげることが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個々に合った過ごし方が出来るように職員で話し合い把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で本人のニーズに合った介護計画をカンファレンスを開き作成している。	3ヶ月ごとにケアプランの更新や見直しを行っている。心身等の変化や本人・家族の希望等の大きな変更もないことから、現在はケアプランの更新となる方が多い。医師からの指示等がある方は、それを含めた内容となっている。カンファレンスは、1ヶ月毎に行って確認している。センター方式をしており、アセスメント等について今後さらに活用していくことで、一層、利用者本位のケアプランになっていくことを望みたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護職員が個別介護記録を記入している。それを職員間で共有することが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望(外泊や実家の畑仕事等)に応じて、出来るサービスは行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんにホームに来ていただき楽しむ事が出来、気分転換が図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前から本人の主治医があり継続して家族や職員の付き添いで通院して健康管理ができています。</p>	<p>通院付添いは、5名の方は、家族の協力に対応できる。その際、利用者の病状を口頭又はメモを作成し、情報提供している。家族の協力が得られない場合は、職員が対応する。主治医は精神科だが、風邪等含む内科的な疾病の場合に、他のクリニックを紹介されることがあり、かかりつけ医が増えていく状況がある。歯科は地域内の協力医に通院している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は看護師に状態に変化が見られたらすぐに連絡取れる体制をとっている。看護師は主治医と連携をとるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>管理者と看護師が医療機関と入退院時連携を取ることが出来ている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り介護ができる事は入居時から説明していますが今の所、医療機関への入院となっている。今後は十分に話し合い支援していきたいと考えています。</p>	<p>終末期における看取り体制は検討しており、入居時に説明している。本人や家族が希望すれば対応していく方針である。現在、看護師は、同法人内のデイサービスに配置されており、兼務となっている。家族の意向もその時々で迷い、不安になって医療機関へ変更する事案も経験した。これまで看取りの対応はないが、緊急対応の研修会を通じてケアの共有に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師から説明は受けているが十分とは言えないので今後も定期的に研修して事故発生時はあわてないで対応できるようにしていきたい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を昼と夜間帯想定で2ヶ月に1回、実施している。地域の方も交えた訓練も行っている。	避難訓練を2ヶ月毎に実施している。職員の手薄な時間帯に発生したらどう避難させるか、対応策を思案中の段階である。夕方や夜間に、避難訓練を実施したことはない。消防署員も立ち会い、避難訓練時の反省点も出されているが、改善のための検討が不十分である。また、地区婦人会(4名)の協力が得られている。備蓄品としては、水・食料、缶詰等を用意している。停電への対応も検討されたい。	前回の目標達成計画にも掲げられている「自治会との合同防災訓練」の実現に向けた取り組み期待したい。運営推進会議と避難訓練を組み合わせ実施するなどし、地域の方にも今一度意識を向けていただけるような取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴、人格を尊重して対応しているが言葉が足りない時や忙しさのあまり不適切な言葉づかいになる時もある。	会話の好きな利用者が多く、呼称は名字がよいか、名前がよいか、その方の好みに合わせている。慣れ合い過ぎて、失礼な言葉遣いにならないよう気配りしている。生活歴も様々で、「誇り」を大切にケアに努め、特に、排泄のケアでは、自力でトイレに行ってできるように自尊心やプライバシーにも心がけた支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも自分から話せる雰囲気や環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全体で利用者様に声掛けは行いが強制する事はしないように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様数人は訪問者が来る時や外出時には自分で化粧をしています。散髪も自分から訴える方もいます。又、職員が様子を見て頼む時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いが出来る方々には食事づくりの手伝い、盛り付けや食後の片付け、食器拭きなど積極的に行ってもらっています。	食材の調達は、週に2回程の生協の配達その他、近所の生協やファルに買い出しに行っている。利用者も一緒に行くこともある。魚が好きな利用者が多く、魚料理も多い。季節ごとの行事食や、春分の日には、彼岸まんじゅうを作るなど、「季節」と「食」の関わりも大切にし、楽しんでいる。桃の節句には、赤いお膳で食事をし、楽しくおいしく食べている。利用者の誕生日には、お祝いの食事メニューとしている。食事時の準備や片付けも積極的に参加している方もおり、和やかな食事の場面となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足にならないように声掛けして水分補給するようにしている。好き嫌いが多い方には別献立にしたりと配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け見守りしながら利用者様に歯磨きを実施してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間とも声掛けしてトイレへ誘導しているが、利用者様のレベル低下が進み尿取りパットやオムツを使用する方が増えている。	利用者の排泄のパターンや状況を知るためのチェック表を付けており、それにより、個別的な声かけや支援を行っている。夜間時には、2時間おきに声かけをし、トイレ誘導を行っている。機能の低下はあるものの、できる限り自立支援に向けた取り組みを目指し、取り組んでいる。1日の水分量は800～1,000ccを目安としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないように食材等に配慮している。水分も声掛け行き多めに補給するように努めている。体操も皆で一緒に毎日実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様と相談しながら1～2日置きに入浴している。拒否がある時は無理することなく別の方に声掛けして入れるようにしている。(体調不良時と同じ)	毎日お風呂を準備しており、4～5人ずつ入浴している。利用者は、1日おき位に入浴している。午前中と午後にバイタルチェックを行い、適切に入浴をしている。入浴時間は、利用者と職員の1対1の時間でもあり、利用者の何気ない話を聞いたりするなど、情報を得る場ともなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様にはなるだけ日中は活動してもらい夜にぐっすり寝られる様に努力しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から説明や指示を受け内服薬の支援をしています。症状に変化が表れたときはすぐに看護師へ連絡取るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の活動や行事などに計画して利用者様に楽しんでもらえるように努めています。時には利用者様から希望が聞かれる時もあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温かい時は近所を散歩することが多いです。外出は当日は難しいが計画を立て実施する事は出来ている。	日常的な散歩の他に、ドライブ、花見、つつじや紅葉見物等、外出する機会が多い。当日の急な要望には応えられないが、計画的な実施については、予めデイサービスから車(3台)を借用するなどし外出している。ドライブの行き先で、ソフトクリームやコーヒーを飲んだり、楽しむこともしている。家族と一緒に外出して、外食など楽しんでいる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は本人はお金を持っていないですが、行事として買い物に行く時など金額を決めて支払いを本人にしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が望まれる時は電話がかけられるように、手紙を出したいときは便せんや封筒を買ってきたり、そして投函も協力して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様からホールに季節の花を活けて頂いたり、行事の展示物を置いたり、皆で季節に合わせた貼り絵を行い壁に貼り季節を感じることが出来ている。	ホールの正面の壁に、皆で共同制作した手造りのちぎり絵のひな人形が飾ってある。昨年は、7段飾りのひな人形だったが、段につまづく利用者もあり、危険防止のため、ちぎり絵が発案された。また、昨年10月まで入居していた方が、エレクトーン演奏、茶会、俳句、生花などやっており、趣味活動が多彩であった。共有空間は、季節感のある落ち付いた雰囲気である。天井が高く、陽光がまぶしい位で、光の調整に気配りしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは自室で過ごしたり、気の合った利用者同士自由に過ごすことが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が自宅で使用していたものや大好きなぬいぐるみなどを自室に置いて落ち着いた気持ちで暮らせるようにしている。	事業所では、ベッド、整理ダンスを準備している。布団、枕、毛布、シーツなどは各自で持参している。仏壇や位牌を持参している方が2名いる。毎朝、水やお茶を備えている。部屋の掃除は、毎朝、皆でモップ掛けしている。自分の部屋を間違えないように、出入り戸口に自分が手作りの飾り物や絵を貼っている。安心して和める雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自分の居室がわかるように入戸口に飾りや絵を貼りわかりやすくするなど配慮しています。		